



イラスト：大城旋律（孫）

それでも、それでも、それでも、沖縄は叫ぶ 石原艶子

〇もしこの人たちが黙れば石が叫び出す（新約聖書 ルカ 19：40）

〇体を殺しても魂を殺すことの出来ない者どもを恐れるな
（新約聖書 マタイ 10：28）

☆玉城デニー知事再選を喜ぶ

辺野古の海の埋め立ては休む間なく続行されている。何もなかったあの自然のままの美しい海は一変してしまっただ。軍事基地建設が命の海を死滅させ続けている。何万個ものサンゴ個体は移植され、生存は困難になりつつある。海では抗議船に乗って抗議し続けている仲間達がいる。その叫びは10年以上も絶えることはない。大海原にカヌーを漕ぎ出し「工事をやめろ」と叫び続ける仲間達がいる。土砂搬出の安和港、塩川港ではダンプの前を牛歩しながら「埋め立てをやめて!!」と頭を垂れてお願いし続ける仲間達がいる。振り向けば緑豊かな亜熱帯の山々は泣きながら消えていく。ゲート前では座り込んで叫び続ける仲間達がいる。一体いつまでこんなことが続くのか、戦いの中で何人もの勇士達は倒れ、命を失っていった。私達夫婦は2010年に西表島から故郷沖縄本島に移住して早12年、休むことなく辺野古通いを続けてきた。然し高齢となり、夫は二年前にリタイアした。そして私も80歳代となり足腰が弱り、現場に出向くことも減っている。顧みてこの12年の重みをずっしりとこの身に感じている。私達沖縄の民は、何度民意を示し続けてきたことか。県民投票もしました。然し国の沖縄へのあり様は全く変わることなく基地建設は強行されてきました。国土の0.6%にすぎない島嶼沖縄、こんなに狭い沖縄に70%もの米軍基地が置かれているのです。私たちの日常生活の場は、道路を挟んで向かいが軍事基地なのです。アメリカ、その他どこの国でも軍事基地は市民の生活の場から遠く離れた広い地にあることが当たり前です。何で沖縄だけが特別なのだろうか、あまりにも理不尽です。全く顧みられることのない沖縄の民意、地方自治も主体性も奪われています。この現実には異状事なのです。何故異状事がまかり通ってしまうのか、私は今迄も何度となく訴え続けてきましたが、また今、同じことを訴えなくてはならないことを本当に悲しく思います。ある方は「沖縄は我慢しているのだ」と言われますが、私は、ただ我慢しているのではないと思います。沖縄は我慢をつき破って声を上げている!!叫んでいる!!どうかこの叫びを聞いて下さい。私たちの叫びは今回の知事選でピークに達したのです。然し一方で他の多くの声が聞こえていることも事実です。「どんなに反対したところで埋め立ては進んでしまっているではないか、国と争っても勝ち目はない。受け入れて経済発展した方が良い」と。これらは地元辺野古の多くの人々の声であり、若者達に多いのです。若者達は現実主義的であり、目先の生活のことが重要であって勝ち目のない戦いはせず、安定を求めます。それだけ若者達には夢、希望がないということでもあります。別の視点から見れば、基地建設こそが若者達の将来の希望を奪っているのだと私は思います。今回の知事選において20代30代のデニーさんへの得票は他年代よりも少なかったことに私は四年後の知事選への危機感を抱きました。若者達の意識を変える良きリーダーが生まれ、次世代の沖縄を平和な沖縄へと前進させてくれることを切に願っています。辺野古反対の民意を真正面から受け止めて戦ったデニーさんをごこの場面で再選させることの出来たことの歴史的意味は非常に大きいと思います。ウチナンチュ、ウシェーティナイピランドー（沖縄の人を馬鹿にしてはなりませんぞ）との故翁長元知事さんの声が天から聞こえて

くるようでした。今回は自民党支持者の20%がデニーさんに投票したといひます。相手候補の統一教会問題もあったとは言え、それ以上にデニーさんの人柄への信頼があったのだと思ひます。相手候補は金の力での派手な公報が目につきましたが、権威主義的な上から目線と実質のない自信と傲慢さがありありと目につきました。一方デニーさんは庶民的、一人もとり残さないと県民に仕え、弱者を見る優しさがありました。出生に始り、戦後沖縄の落とし子のようなデニーさんを私たちオール沖縄は総力上げて支援し、勝利しました。玉城デニー知事の四年間は首里城焼失、豚熱、コロナ禍、辺野古裁判闘争と休む間もない御苦勞の連続であったと思ひます。今後の4年間もさらに増して御苦勞と思ひます。大浦湾の埋め立ては本当に出来るのでしょうか。政府は表向きは「やる、」と言ひていますが、本当のことは何も私たちには分りません。普天間基地が本当に返還されるのかも分りません。日米政府は沖縄を欺き続けてきました。辺野古キャンプシュワブは沖縄戦での収容所があった所です。収容所には多くの子供達がいて、飢えや病で多くの人々が死んでいったと聞ひています。この基地の地中深くにはその人々の遺骨があり、魂が眠っているのです。このことを忘れてはいけないと思ひます。琉球新報に知事選結果に対する沖縄ヘイトが紹介されていました。「沖縄土人」「馬鹿」など差別的表現、「沖縄は独立して中国の属国になることを目指すのか」（事実と異なる言説）匿名アカウントは「沖縄には荒治療が必要だ」「沖縄振興資金は凍結を」「沖縄限定で治安維持法が必要」などの非論理的な返信があったという。顔の見えないネット上で無責任な誹謗中傷、ヘイトが拡散されていくことの恐ろしさを思ひます。ネット情報に敏感な若者達への影響は大きいと思ひます。ヘイトを拡散させて選挙をかく乱することも出来てしまう恐ろしい時代になりました。本当に一寸先は闇とはこのことで、再選を果たした玉城デニー知事さんと共に国を相手にそれでも、それでも、それでも声を上げ続ける私達は国家権力に潰されそうになっているけれど、私は「NO WAR 命どう宝、」のプラカードを掲げ、戦争のない世界を祈り続けたいと思ひます。今回の知事選はオール沖縄の勝利であり、連帯して下さった本土の友人達と勝利の喜びを共にしました。ご支援して下さったお一人お一人に心より感謝致します。

☆ウクライナ戦争は何故止められなかったのか

グローバル化された世界は、ひとつの争いが地球人類すべてに影響し弱い立場の人々の命が脅かされます。そして人類史上戦争が絶えることはありませんでした。ウクライナ戦争はプーチンだけが鬼であり悪人なのか、確かにプーチンは鬼だとしても何故、鬼にここまでの戦争をさせてしまったのか、もっと違う道はなかったのか。アメリカと西側諸国とロシアとはそれぞれ異なり、民主主義国家と専制主義国家と言えが、この異なる国家が互いにその歴史と成り立ち、違いを認め合い共存出来る道を何故、見い出せなかったのか。西側諸国はプーチンと向き合い冷戦後築いてきた関係（ロシアからパイプラインで天然ガスを頂く）、ロシアに助けられてきた関係を大切に感謝を表明「私たちは、あなたを必要としている、共に生きていきましょう、」とのメッセージを送らなかったのか。冷戦後、ウクライナはロシアから自立する国造りが出来たはずなのに常に不安定でロシア寄りの政権が続き、東部はロシア語を話すロシア人が多く居住し、ロシアの兄弟国でした。このウクライナが今や米口の綱引きの草刈り場になってしまった悲劇を一体誰が招いたのか。8月30日に死去されたゴルバチョフ氏は「欧州共通の家」構想を提唱していたことを知りました。この構想を西側諸国が実現させる努力を続けていたら、プーチンの暴走を食い止められたかも知れません。敵対、分断は戦争へとつながります。自分と異なる価値観、思想、信仰を持つ人を拒絶するのではなく、語り合い、認め合い、共存する道を求めていく事が出来るのか、私たちに問われています。共存するためにはお互いが努力して、戦争は絶対にしないという約束をかわさなくてはなりません。アメリカが世界の現状を民主主義国

と専制主義国との対立と見て世界分断の構図を作っておおっているように見えてなりません。アメリカは軍需産業によって立つ死の商人の国であり、常に戦争を作り出そうとしている国であることを忘れてはなりません。そして世界が二極化の方向へと進んでいく事は非常に危険です。私たちの選択は自分中心ではなく相手を生かす方向を求め、敵意を抱かせないように相手が悪人にならないように、不幸にならないようにすること、それこそが自分もまた生かされる道だと思います。温暖化による干ばつ、洪水など自然災害の多発によって苦しむ地球家族の上にさらに二極化による戦争という不幸を絶対に来させてはなりません。今この時だからこそ伊江島の故阿波根昌鴻さんの残された言葉に聴き、かみしめたいと思います。

●われわれは われわれの先祖の畑を米軍から奪還するがそれで万事めでたしというものではない。

●わたしの平和運動は沖縄から基地を無くしても終らない。日本の平和憲法を世界中で実現させて、世界中の武器を全部なくす。そして地球上の資源を地球上の生き物が平等にバランスよく分け合って生きてゆけるような社会にするまでは平和運動はやめられない。

●基地依存、他力本願、天からポタモチ、乞食根性、これであって誠は誠に情けなく寂しい限りです。村の真の繁栄はこのような他力依存ではなく勤労し、村民自らが汗して築く永遠に衰えないものでなくてはならないと信じます。

阿波根さんの生きた言葉は私達の魂を揺り動かします。そこには全人類への愛があらわれています。愛がなくてはどんな言葉も空しく力を失うでしょう。

☆沖縄でも2つのチャリティーコンサートがありました。

○「ウクライナの友と地上のすべての戦争にNO」——フルートとバイオリンとチェロによる響き合う祈りの三重奏はウクライナの大地の嘆きと悲しみの声となり、平和を祈る三重奏でした。

○カテリーナさん（ウクライナの民族楽器バンドゥーラ奏者）スペシャルコンサート、ウクライナのことを日本人の人に伝えたいと民族楽器バンドゥーラの深い音色に合わせてウクライナの歌を歌って下さいました。日本の歌、3：11 東日本大震災での「花は咲く」の日本語での歌は独特の深みがあり感動でした。音楽は民族を越えて地球家族をつなげる平和の力を持っています。ロシアにもボリショイバレエ、トルストイ、ドフトエフスキーなどの文学があり、ロシア民謡のあの深い独特な響きが聞こえてきます。戦争の今だからこそ、ロシアの芸術にふれたい！ロシアの音楽を聴きたいと思いました。ロシアとウクライナの音楽が闇を打ち破ってひとつの曲を奏でる日が来ることを信じて祈り続けたいと思います。

台湾有事——学者、識者たちは2030年迄に台湾有事はあると言って不安をあまり立てている。じゃああると言うなら「起こさないためのありとあらゆる努力をしたら起きないということですよ」と私は言いたい。台湾、沖縄、琉球孤を戦場にするな！全国キャラバンの報告によると、2006年に日米政府が合意した在日米軍の再編で、自衛隊はアメリカの戦争で積極的な役割を担うことになりました。琉球孤に次々と造られている陸上自衛隊のミサイル基地はアメリカの対中戦略の最前線を担います。戦場は琉球孤、日本列島です。宮古島が島嶼防衛の最前線となり沖縄戦のように今度は宮古島が日本防衛の捨て石にされるのです。琉球孤の第一列島線上に日米のミサイルと中国のミサイルが対峙するのです。最近、有事の際の住民避難のことが具体的な案件として生々しく論じられ、シェルター建設のことまでも報じられています。島嶼の住民避難がいかに難しく不可能であることが分ってきました。有事には沖縄戦と同じように、今のウクライナのように住民は犠牲になるのです。中国を敵視すれば、中国とロシアとの結束を強め世界の二極化を一層進めてしまいます。かつて日本は中国を侵略蔑視し、多くの住民を虐殺、人体実験などプーチン以上

の悪行の限りを行ったことを決して忘れてはなりません。そして中国はどここの国とも戦争はしていません。同じアジアの大切な隣国、中国と日本は絶対に戦ってはいけません。アメリカに追従し、アメリカの手先として利用されて、自衛隊が最前線で戦うというのですか。もういい加減アメリカ追従はやめて真の独立国を目指して下さい。「沖縄の米軍基地はすべて撤去して下さい」と私は叫びたいです。アメリカはいつだって自国の領土を戦場にすることはありませんでした。軍事大国、軍需産業、死の商人の国アメリカは自国の利益が第一なのです。そのためには同盟国日本を最大限利用するでしょう。アメリカはこの地球上で最悪の国、この国のために日本を売るのである。言いなりになって高額な武器を買い、思いやり予算で優遇し、アメリカにとってこんないい国はどこにもありません。ある友人が集まっている海兵隊員に「沖縄はどうですか」と聞いたら「パラダイス!!こんないい所はない」と両手を上げたそうです。住民は苦しんでいるのに、人々の暮らしは貧しいのに何故米軍は優遇なのか。アメリカ追従からの脱却なくして日本の未来はないでしょう。台湾有事、米中戦争のありとあらゆる芽を摘む努力と知恵をふりしぼって絶対に戦争を止めていきましょう。

○アベ元総理の国葬——玉城デニー知事は国葬に参加しないと表明されました。折しもエリザベス女王の国葬を見ることで、アベさんは国葬ではなく内閣葬であってほしかったと改めて思いました。岸田さんの感情的な早まった決断は、国民を分断し禍根を残しました。

○統一教会問題——アベさんと統一教会との関係を、洗いざらいすべて明らかにし完全にウミを出し切らなくては政治の刷新にはなりません。どうか保身をやめて事実と向き合ってください。政治家の一人一人が変らなくては日本の未来は暗いでしょう。

○食糧安全保障——自給率の低い日本の危機が叫ばれています。円安の今こそ食を見直す絶好のチャンス。輸入食品に頼らずに日本の大地から生れる米、野菜、果実、地産地消、身土不二、足元に豊かさあり、答えがあります。米には無限の可能性あり、米粉の利用、米粉パン等々、大地が健全であれば人は生きられます。私達は日々玄米の美味しさに目覚め、命の糧に感謝しています。

○土地規制法 20 日に全面施行——基地周辺での私達の抗議行動の制限や、テント強制撤去などが心配です。

○PFOS（有機フッ素化合物）の環境汚染は沖縄に限らず全国的な重大公害問題です。国が責任をもって早急に取り組むべき課題です。共に政府に働きかけていきましょう。

辺野古基金のために

つながるかうつぐみの会（大野悦子）

*布マスク*大・小の手提げ袋*ティッシュケースカバー*鍋つかみ*コースター*マイバック
*ランチョンマット

あみの会（山田博子）作品準備中

どうぞ御注文下さい。 ※リサイクル着物、リサイクル糸求めています。 両窓口：石原艶子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原艶子

携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@tg7.so-net.ne.jp

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ

